

### (3) 水産の流通・加工の概況

本県水産加工業は、塩釜、石巻、気仙沼及び女川を中心とした大型産地魚市場への豊富な水揚げに支えられ、全国でもトップクラスの地位を築き上げてきました。

国際的な規制により、本県漁業が北洋漁場から撤退した後は加工原魚の多くを海外からの輸入に頼らざるを得ない状況ですが、現在でも常に全国上位の生産を誇っています。

県内における平成18年の製造品の業種別出荷額を見ても、食料品出荷額(5,886億円)のうち、水産加工品は2,691億円と実に食料品出荷額全体の約46%で、平成13年以降概ね50%を占めており、本県において極めて重要な地場産業であることが分かります。

#### イ 水産加工生産

水産加工業は、本県の地域経済を支える重要な産業として発展してきましたが、県内産地魚市場への水揚量が減少していること、輸入原魚への依存度が高まる中で世界的な水産物消費の増加により輸入原魚の安定確保が困難になっていること、そして国内消費の低迷等から生産量は年々減少していますが、ここ数年は横ばいの傾向になっています。

また、生産額においても、生産量の減少に加え、川下主体の価格形成を余儀なくされていること等から減少傾向で推移しています。

本県における平成18年度の水産加工品生産量は約41万トン(対前年比104%)、生産額(水産加工品製造出荷額)では2,691億円(対前年比99%)となり、近年の傾向としては、生産量では前年を上回るものの、生産額は前年より低くなっています。

品目別で見ますと生産量では、ねり製品(対前年比2,210トン・2.9%減)、冷凍食品(同3,231トン・7.2%減)等においては前年より減少しましたが、冷凍水産物(同32,454トン・16.7%増)は増加しています。

一方、出荷額では、冷凍食品(対前年比33億円・4.1%増)は増加したものの、ねり製品(同16億円・3.6%減)、及び冷凍水産物(同12億円・4.3%減)等は前年より減少しています。

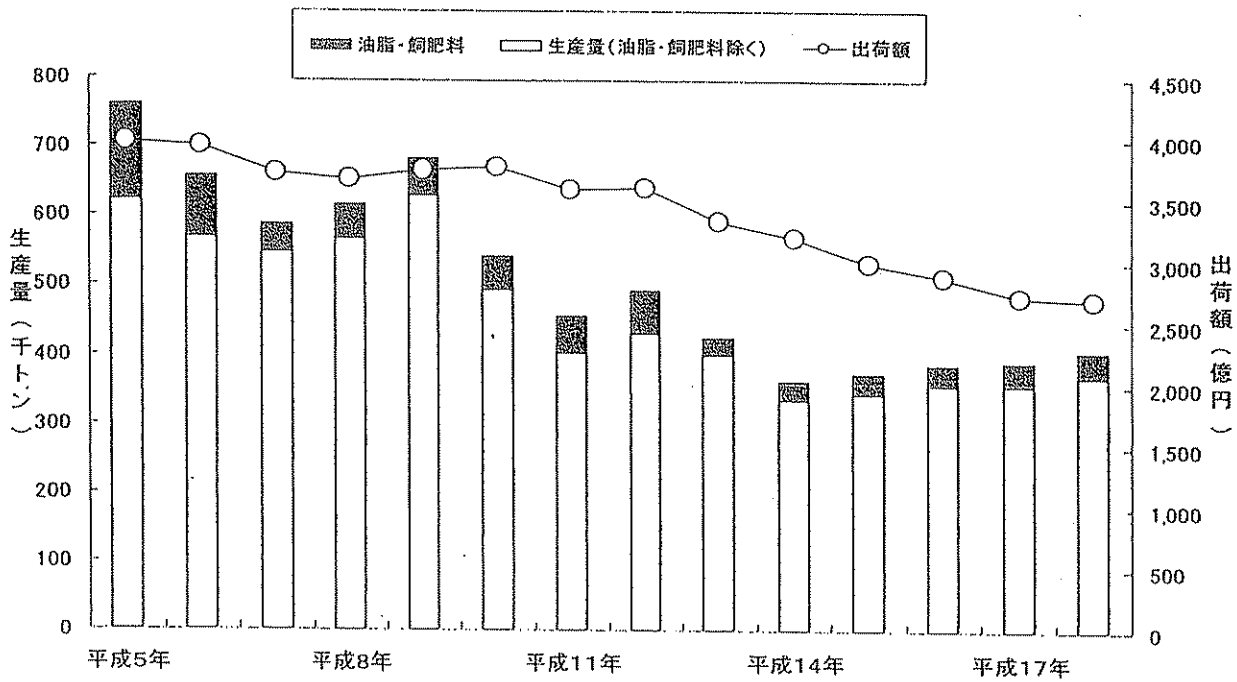
(単位：億円)

区 分	平成14年		平成15年		平成16年		平成17年		平成18年	
		%		%		%		%		%
電気製品	8,497	24.7	8,908	26.0	8,729	24.8	8,254	23.1	8,344	21.9
食料品	6,362	18.5	6,164	18.0	6,035	17.2	5,737	16.1	5,886	15.4
水産加工品	3,193	9.3	2,988	8.7	2,882	8.2	2,719	7.6	2,691	7.0
その他	3,169	9.2	3,176	9.3	3,153	9.0	3,018	8.5	3,195	8.4
その他の製造品	19,504	56.8	19,228	56.1	20,372	58.0	21,711	60.8	23,954	62.7
計	34,363	100.0	34,300	100.0	35,136	100.0	35,702	100.0	38,184	100.0

資料：宮城県企画部「宮城県の工業」

表19 県内製造品出荷額の推移

(注) 平成14年に統計区分が変わったため、平成14年以降の「電気製品」は、「電子部品」、「電気機械」及び「情報通信機械」の合計値として示した。



資料：東北農政局統計部「宮城農林水産統計年報」  
宮城県企画部「宮城県の工業」  
農林水産省統計部「水産物流通統計年報」

図19 水産加工生産量及び出荷額の推移

(生産量：トン，出荷額：百万円)

		H13	H14	H15	H16	H17	H18
生産量	ねり製品	77,702	78,674	77,095	76,426	74,953	72,743
	冷凍食品	40,997	43,535	42,085	46,239	44,921	41,690
	その他食用加工品	77,328	83,198	75,443	77,300	76,343	65,041
	冷凍水産物	229,678	155,806	178,414	185,621	193,842	226,296
	計	425,705	361,213	373,037	385,586	390,059	405,770
出荷額	ねり製品	54,177	50,596	49,484	45,248	45,959	44,311
	冷凍食品	90,257	104,632	90,361	79,037	79,839	83,149
	その他食用加工品	135,927	121,361	117,258	122,963	116,977	113,746
	冷凍水産物	55,251	42,715	41,695	40,895	29,109	27,858
	計	332,612	319,304	298,798	288,143	271,884	269,064

資料) 生産量：東北農政局統計部「宮城農林水産統計年報」  
出荷額：宮城県企画部「宮城県の工業」

表20 宮城県における水産加工品の生産状況

(注) 生産量については、平成13年から「調査対象を加工場又は加工施設があり、専従の従業員のいる経営体」としたほか、「油脂」、「飼肥料」、「寒天」及び「冷凍水産物」のうち「冷凍海産ほ乳類」、「塩蔵品」、「その他の加工品」の調査が中止され、加工種類及び調査品目についても追加・統廃合されている。

## ロ 産地魚市場の水揚げ状況

本県には気仙沼、石巻、塩釜及び女川の主要4魚市場をはじめとした10か所の産地魚市場があり、そこに水揚げされる多種多様な水産物は、仙台や築地等の消費地市場を中心に全国各地へ出荷されています。

しかしながら、沖合漁業の対象種であるイワシ等を中心とした多獲性魚種の資源量が低位水準かつ減少傾向にあること、また、沿岸においても資源量が総じて低水準にあることなどから、長期的に見ると、本県産地魚市場における水揚量は減少傾向にあります。近年は、35万トン前後で推移しています。

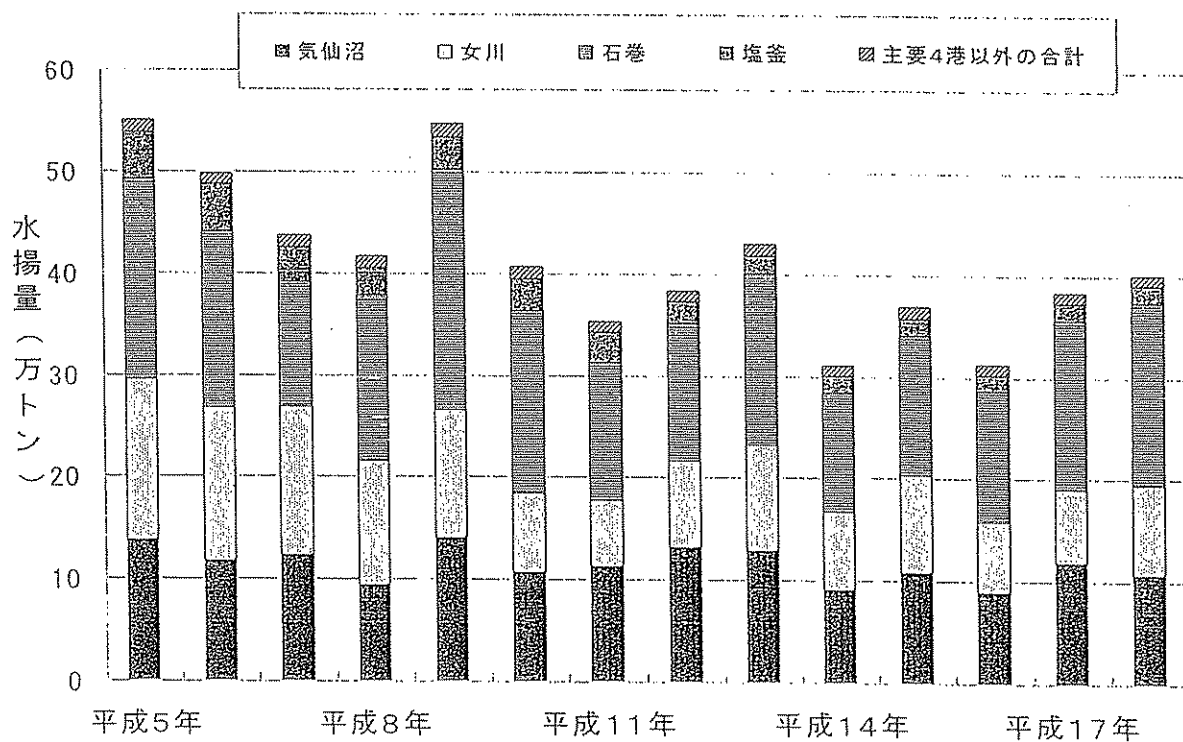
また、消費の低迷や安価な輸入水産物との価格競争等により水産物の水揚単価も全般的に低迷しています。

平成18年の本県産地魚市場における水揚量は、40万2千トンと前年に比べ1万8千トン・4.8%増加しました。同様に、水揚金額は639億8千万円と前年に比べ40億円・6.7%増加しました。

魚市場別に見ると、数量では、気仙沼魚市場（対前年比12,035トン・10.1%減）で減少しているものの、気仙沼を除く主要市場では、塩釜魚市場（同874トン・5.0%増）、石巻魚市場（同12,081トン・7.3%増）及び女川魚市場（同16,733トン・23.7%増）では増加しています。

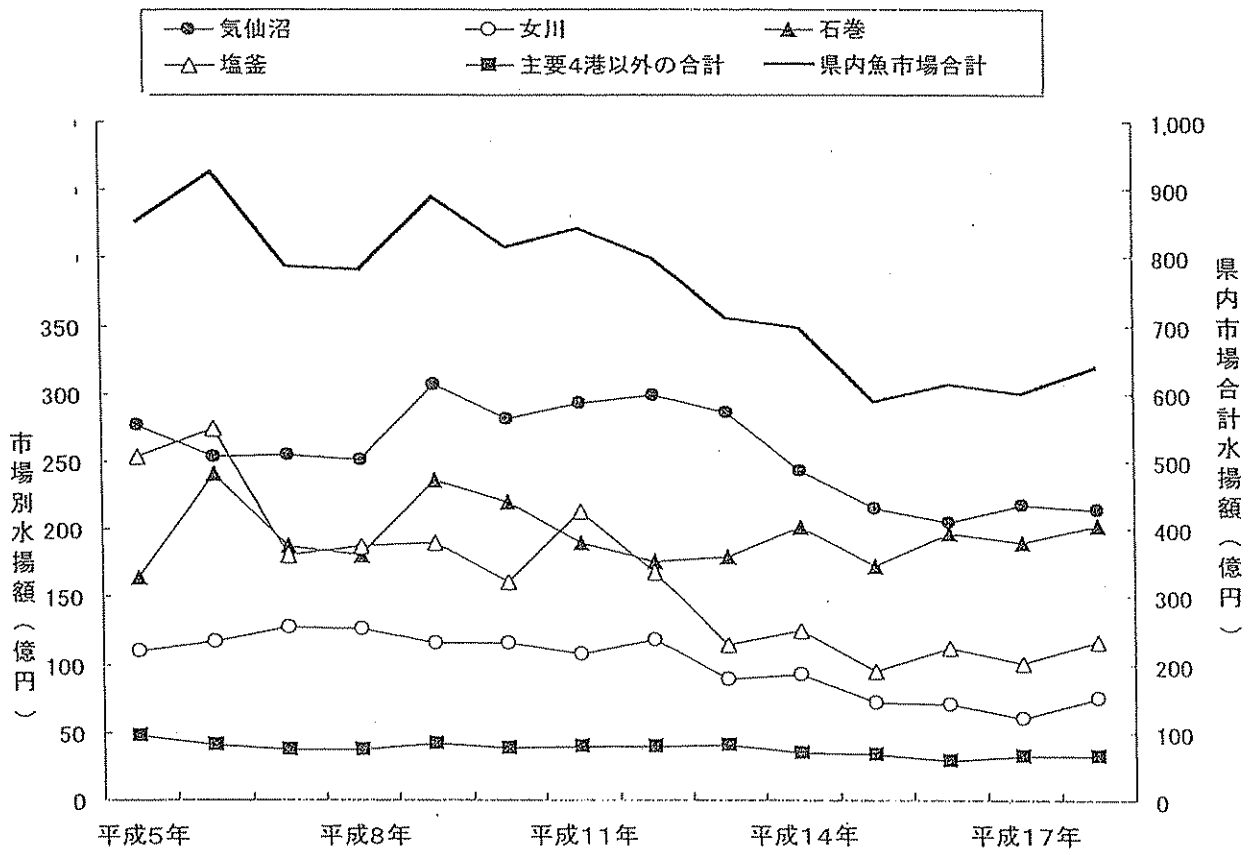
水揚金額では、数量同様、気仙沼魚市場（対前年比3億5千万円・1.6%減）で減少しているものの、塩釜魚市場（同15億6千万円・15.4%増）、石巻魚市場（同13億2千万円・7.0%増）及び女川魚市場（同14億6千万円・24.2%増）では増加しています。

魚種別に見ると、水揚げ数量及び水揚げ金額の増加の要因としては、さば類、いわし類、まぐろ類等の水揚げ量の増加及び水揚げ金額の増加が大きく影響を及ぼしたものと考えられます。



資料：宮城県農林水産部水産振興課「水産物水揚統計（属地統計）」

図20 県内産地魚市場の水揚げ量の推移



資料：宮城県農林水産部水産振興課「水産物水揚統計（属地統計）」

図 2 1 主な産地魚市場の水揚額の推移

(水揚量：トン、水揚額：千円)

魚市場名	水揚量			水揚額				
	対前年比	県内船	県外船	対前年比	県内船	県外船		
地方卸売市場塩釜市魚市場	18,527	105.0	6,270	12,256	11,644,553	115.4	2,776,292	8,868,261
地方卸売市場気仙沼市魚市場	107,127	89.9	34,000	73,127	21,358,033	98.4	9,002,608	12,355,425
石巻市水産物地方卸売市場	178,135	107.3	84,326	93,809	20,290,235	107.0	12,238,520	8,023,255
渡波地方卸売市場	103	85.1	102	1	56,935	96.6	55,990	945
女川町地方卸売市場	87,401	123.7	61,764	25,637	7,484,435	124.2	5,478,613	2,005,822
志津川町地方卸売市場	8,984	111.6	8,672	313	1,687,881	119.9	1,598,356	89,524
関上地方卸売市場	194 (170)	79.2	194	0	174,365	86.8	174,365	0
地方卸売市場 亘理町漁業協同組合魚市場	571 (29,979)	98.1	571	0	528,376	94.5	528,376	0
牡鹿町地方卸売市場	311	57.2	311	0	170,955	59.5	170,955	0
地方卸売市場七ヶ浜町漁業 協同組合花洲浜魚市場	293 (30,634)	94.5	293	0	587,252	87.0	587,252	0
合計	401,646 (60,782)	104.8	184,558	205,019	63,983,020	106.7	32,611,327	31,343,232

資料：宮城県農林水産部水産振興課「水産物水揚統計（属地統計）」

表 2 1 各産地魚市場の水揚（平成 1 8 年）

(注) 水揚量の下段にある ( ) 内の数値は、「養殖のり」の水揚量（枚数：千枚）を示す。

## ○産地魚市場を中心とした水産物産地流通拠点の整備

気仙沼・石巻・塩釜・女川の各魚市場は、全国有数の水揚げ量を有し県内はもとより全国に新鮮な魚介類を出荷しています。漁港背後地を中心に地域内には冷凍・冷蔵、水産加工、製氷・貯氷等の様々な水産関係施設が集積し、水産物の産地流通拠点としての機能を果たしています。

同時に、燃料・食料等の供給、包装資材関係、運輸関係等関連業種も含めて地域経済の中心としての役割を担っています。

県では水産物の安定供給や産地流通機能の高度化等を図る観点から、国と連携しこれら地域における産地流通拠点としての整備を支援しています。

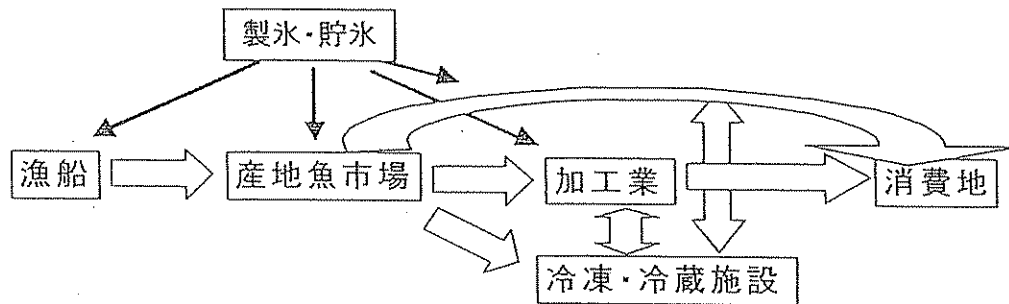


図1 宮城県内の産地魚市場を中心とした水産物等の主な流れ

### 産地流通加工拠点整備関連事業一覧（水産庁補助事業関係分）

事業費：百万円

年度	施設名	事業主体	総事業費
H元	残さい処理施設	気仙沼センター水産加工業協同組合	132
H2	廃棄物処理施設	(社)石巻市水産加工排水処理公社	146
H6	冷凍・冷蔵施設	渡波水産加工業協同組合	174
H7	冷凍・冷蔵施設	気仙沼漁業協同組合	362
H8	冷蔵施設	石巻市	1,863
H8	水産加工公開実験棟	宮城県	229
H9	廃棄物処理施設	石巻魚類協同組合	15
H15	冷蔵施設	気仙沼水産加工業協同組合	226
H16	排水・廃棄物処理施設	気仙沼センター水産加工業協同組合	474
H17	冷蔵施設	気仙沼冷凍水産加工業協同組合	309
H17	海水浄化施設	石巻市	123
H18	水産物荷捌き施設	気仙沼市	696
H19	貯氷庫施設	石巻市	182

(水産業振興課)

## ○中小企業地域資源活用プログラム

地域の「強み」である産地の技術、農林水産品、観光資源を活用して新商品・新サービスの開発・市場化に取り組む中小企業を総合的に支援する「中小企業地域資源活用プログラム」が創設されました。このプログラムは経済産業省をはじめ、総務省、財務省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省の6省連携の施策に位置付けられ、5年間で1000件の新事業創出を目指しています。

### 1 地域資源の指定状況

平成19年6月29日に施行された「中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律（中小企業地域資源活用促進法）」に基づき、各都道府県は基本構想を策定し、地域における資源を指定しています。

宮城県では、平成20年4月1日現在で231件の地域資源を指定しています。

- (1) 農林水産物(61件) …かき、かつお、ぎんざけ、鯨、さば、さめ、さんま等
- (2) 鉱工業品及び鉱工業品の生産に係る技術(53件) …かまぼこ、たらこ、船等
- (3) 文化財、自然の風景地、温泉その他の地域の観光資源(117件)  
…仙台七夕まつり等

### 2 法律認定に基づく主な支援内容

中小企業が、県が指定する地域資源を活用した事業計画を策定し、「中小企業地域資源活用促進法」に基づく国の認定を受けると次の支援を受けることができます。

- (1) 地域資源活用売れる商品づくり支援事業(補助率:2/3以内)
- (2) 政府系金融機関による低利融資制度、商工組合中央金庫による独自貸付
- (3) 信用保証の特例、食品流通改善促進機構による債務保証等
- (4) 設備投資減税
- (5) ハンズオン支援

### 3 事業計画の認定状況

宮城県の地域資源を活用して平成19年度に国の認定を受けた事業計画は6件で、そのうち水産物を活用したものは以下の4件となっています。

- 日本で初めて「魚肉100%の無添加無着色生・燻製ハム/ソーセージ」の開発・製造  
(地域資源:かつお、めかじき)
- 畜肉ハンバーグと同じ食感が出せる、お魚ハンバーグ(サバ)の開発・販売  
(地域資源:さば)
- 鯨の特性を活かした新たな食品の開発と販路拡大  
(地域資源:鯨)
- 栄養豊富なかつおを活用したナゲットの開発・販売  
(地域資源:かつお)

(農林水産政策室)